【審査員特別賞】

変えたアクセサリー

滋賀大学教育学部附属中学校３年　水本　華

私のお友達は女の子です。でも今は男の子になりました。性別とはなんですか？私達はなぜ性別にとらわれるのでしょうか。

私のお友達は女の子でした。初めて出会ったのは小学校低学年のとき。私達はよく男の子達にまじって遊んでいました。しっかりしていて優しくて大好きなお友達です。一緒に習い事もしていて、わからないことがあれば教えてくれて一緒に練習してくれて、泣き虫な私が練習に行くのを迷っていると

「早く行くで‼泣くな‼」

とよく連れだしてくれたり、頼りになるお姉ちゃんのような存在でもあり、一緒にふざけられる大好きなお友達でもありました。そんなお友達と小学校時代を共に過ごしましたが私が中学受験をした関係で、中学は離ればなれになってしまいました。中学校に入学してバタバタと時がすぎて、そのお友達ともなかなか連絡がとれていなくて、なかなか会えなかったある日、たまたま同じ小学校の別のお友達に会ったとき

「○○性別変えて男の子になったんだよ」

とつげられました。本当にびっくりしました。まさか、身近にそんなことがおこるなんて。久しぶりに連絡をしようと思ってはいましたが、それを聞きどうしたらいいかわからず時間がすぎていきました。そして三年生になる春に今度は男の子から

「○○性別変えたん知っとん？連絡とった？」と聞かれました。しかし私は初めてきいたときから勇気が出ず、連絡をすることができていませんでした。するとお友達が男子バスケットボール部に所属し今一緒にプレーしていると教えてくれました。私は勇気を持って

「ぶっちゃけどう思ってんの？やっぱみんな変わっちゃったかな…」

と聞きました。すると、

「なーんも変わってへんし、○○は○○やで。それにみんな大好きな友達やと思ってるよ。華はなにをそんなびびってるん？」

怖かった。友達が性別を変えてしまったことで全然別人になってしまったような気がして怖かった。それに周りがうけいれてなくてみんなの関係が崩れていたらどうしよう。そんな風にばかり考えていた私はそのお友達の言葉にハッとさせられました。性別を変えたからといってその子は何も変わらない私の大好きな一人の友達なんだと。そして私達の関係はそんな簡単に崩れてしまうような関係ではなかったことをその時思い出さされました。そして教えてくれたお友達に

「会いにこいよ。夏の俺らの最後の試合見に来て〇〇のがんばってる姿見たって。」
そう言われ私は会いにいくことを決意しました。そして夏の大会の日。会場に行くと最初に私に気づいてくれたのは男の子になったお友達でした。なんにも変わらない笑顔と、私より大きな手で迎えいれてくれてハイタッチをしてくれました。彼は途中からバスケ部に入部したため試合にはでず、応援メンバーとして試合に参加していると私に言い、
「応援って大事やから華も行くでー‼」
とみんなのところに連れていってくれました。
がんばりやさんで、しっかりしていて周りをよく見ているその子だったからこその一言で本当に何も変わっていないんだなと感じました。
　私達は人間です。みんな男の子か女の子となっているのが普通でしょう。しかし、それ以上に私達にはつながっているものがあります。性別にとらわれるのではなく、その人を見て、その人の人間性やがんばっている姿にひかれ、つながっていっているのです。最近
ジェンダーレスと言われるようになってきて男の子が女の子になったり、その逆だったり男の子同士のカップルがいたり、その逆の方がいたり、いろんな人がこの世の中にはおられます。それは決して悪いことではありません。しかし冷たい言葉を向けられ、辛い思いをしている人もいます。でもそれもその人が決めた一度きりの人生なのです。それの何が悪いでしょうか。きっと私の友達も大きな不安を抱えていたでしょう。でも友達は
「一回きりの人生自分の生きたいように生きる。」
そう口にしていました。これは私の忘れられない言葉であり、大事にしている言葉の一つです。ジェンダーレスとは社会性別の性差のない、またはなくそうとする考え方を意味するそうです。そんな社会にするには周りの理解と受け入れが必要なのではないでしょうか。私は性別とは自分を飾る一つのアクセサリーだと考えます。性別を変えるとはアクセを変えるようなことなのです。だって何もその人は変わらないから。そうやってアクセを変えてかっこよくなった友達とかっこよくなったねと受け入れた自慢の友達を見たからこそ私はそう考えます。最高の出会いをありがとう。